

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100959		
法人名	有限会社 三英会		
事業所名	グループホームにこにこ		
所在地	〒038-2701 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字北浮田町字平野206番地4		
自己評価作成日	令和2年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気大切に、入居者様が毎日の生活を笑顔で安心して送れるように心掛けている。又、協力病院・往診・かかりつけ薬局等と連携しトータル的にサポート出来る体制作りをしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ感染症拡大により、行事や訪問等を自粛されているが、可能な限り近隣を散歩し地域の人と交流を図っている。通院時等を利用し、住み慣れた地域をドライブすることによって気持ちを穏やかに過ごせるよう支援されている。職員ひとり一人が日々の支援の中で理念を意識できるように掲示されている。研修や勉強会を開催し、職員ひとり一人のスキルアップ向上に努めている。業務等に問題がある時は、管理者へ相談し改善を図り、より良い仕事環境や方法を検討しながら支援されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を提示し、全職員が理解・共有し、日々のケアの実践に繋げている。	グループホーム理念は、室内に掲示したり、3ヶ月に1回は、学習会や職員会議を開催し共有を図っている。利用者ひとり一人の様子に目を配り、声掛けにも工夫しながら寄り添い、理念に沿った取り組みを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方々をホームの納涼祭に招待し食事をしたり、会話をする機会を設けている。天気の良い日はホーム近くを散歩し近隣住民の方との交流を図っている。	コロナ禍の影響で日常的な交流は行えていないが、グループホームの取り組みや利用者の様子については便りを送付したり、玄関先で面会を行えるよう工夫している。天気の良い日は近所を散歩し、近隣住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援の方法を知っていただくために、運営推進会議にて利用者様の日頃の様子や介護事故・ヒヤリハット・事故防止予防対策に関して報告しており、地域の方々から意見や助言をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を開催し包括支援センター、役場職員、ご家族に参加頂いている。会議ではホームの活動内容や利用者様の日頃の様子を報告している。又、地域の他施設と合同で行う事により意見や助言を頂きサービスの向上に努めている。	定期開催がされ、利用者・家族・行政・地域住民の参加があり、グループホームの取り組みを分かりやすいように工夫しながら伝えている。地域にある他事業所とも合同で開催するなど、同業者との意見交換も活発に行いサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当職員や地域包括支援センター職員に参加して頂き意見や助言を頂いている。地域ケア会議にも参加し情報交換をしている。	運営推進会議への出席でグループホームの状況を理解して頂いたり、日常的に、入退居の状況やサービスの取り組みに関しても相談し、助言や指導を頂く等、協力的な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ対策として身体拘束廃止に関する指針を作成し3カ月に1回は身体拘束や事故防止委員会を開催し職員で話し合っている。ホーム内でも職員の勉強会を行っている。	グループホーム内での勉強会で理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会やマニュアルを基に職員ひとり一人が声掛けから意識し支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において勉強会を行っている。又、待遇に関する勉強会も行っており職員は言葉遣いに注意して日々のケアにおいて虐待が行われないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回、内部研修で成年後見制度や権利擁護についての勉強会を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を基に説明し不安や疑問がないか尋ねながら納得した上で入居して頂いている。改正の際にも理解して頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や面会に来たご家族様がいつでも意見や要望・苦情等を出しやすいようホームの玄関先に投書箱を設けている。要望や苦情があった際は職員で話し合い、対応策を考え改善に努めています。	新型コロナウイルス感染症の影響で制限がある為家族からの意見等は、電話での対応をしている。利用者の方からは、普段の生活の中での要望や意見を傾聴し、そこでの内容については、その都度話し合いを行い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議のほか、必要に応じてその都度、話し合いを行っています。また、職員で結論を出すことができない場合は、その都度代表者に確認を行い、実施しています。	毎日の申し送りの他、普段から職員の意見や提案が言いやすいような雰囲気を作られている。管理者へも気軽に相談できる雰囲気を作っており、出された事項は職員と話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて各職員の努力や勤務状況を把握し、資格手当や有給休暇を消化していただいたり、各職員が向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は評価や面談を通し、職員一人ひとりに助言やアドバイスをしている。また、できる限り外部の研修や講習に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3カ月に1回、町内のグループホームの会議に参加し情報交換やホームの運営に関する相談・助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況の把握に努め、利用者の思いや希望に耳を傾け、利用者の不安を受容し信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安に思っている事を聞き取り、相談には速やかに対応し話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、利用者や家族のニーズにできる限り対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができる範囲で職員と共に家事や軽作業を行う機会を設け、家族としての関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時は日頃の様子やご本人の要望を伝え、離れて暮らしていてもお互いの関係が良好に保てるようしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や面会に来た友人・知人の方々には、いつでも気軽にホームに来ていただけるように声をかけている。また、これまで通っていた病院等にも通えるように対応している。	入居後も墓参り等が継続できるように、家族の協力を得ながら支援している。また、家族や知人が面会に来てくださることで馴染みの関係が続けられるように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴等を考慮し、席順を配置したり、時に職員は共通の話題を提供・介入し利用者様同士の関係を円滑に保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様から相談があれば受けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日、利用者様とコミュニケーションを図り、思いや意向を把握するように努めている。また、うまく思いを表現できない方には、日頃の表現や行動から把握するようにしている。	日々の支援の中で表情・行動の観察から、思いや暮らし方について、意向をくみ取れるように努めている。職員の気づきを共有できるよう、個別のチェック表を活用し、本人本位の暮らしについて話し合っている。また、家族の意向も随時確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談の際にご本人やご家族様から聞き取りをしている。また、普段の会話からも把握できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活習慣や出来る事を把握し、心身状態に合わせた利用者らしい生活を提供できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で十分に話し合い、利用者様やご家族様からの意見や要望が反映された介護計画の作成に努め、状況に応じて、新たな介護計画を作成するように努めている。	本人や家族、また関係者から情報を得たり、日々の行動や表情から思い、希望、意向の把握に努め、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入し介護計画の見直しに活かしてはいるが、本人を身近で支える職員しか知り得ない事実やケアの気づきの記録の残し方の工夫を望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の1日の生活状況を個別ケースへ具体的に記入し、職員は情報を共有しながら、実践や介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの多機能性には限りはあるが、利用者様やご家族様の状況に応じた支援や柔軟な対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、民生委員や町内会長、地域の方々との交流をもち、安心して暮らしていけるように協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの受診状況を把握し、利用者様やご家族様の希望する医療機関を受診できるように支援している。また、受診が困難な方には往診が受けられるよう協力しながら支援している。	家族からの希望があればかかりつけ医を継続できる体制を整えている。受診後の状況報告も確実に行い、家族へ心配ないように配慮している。利用者の健康状態や家族の実状も考慮し、訪問診療や適切な医療機関を受診できるよう支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師があり、日常の健康管理を確認し、状態に応じた対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は病院内の地域連携室と連絡を取り合い、早期に退院ができるように、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については本人やご家族様と十分に話し合いをし都度、変化があれば看護師・協力医の往診や関係者と密に連絡をとり連携して支援している。	重度化や終末期の指針を定めており、入居前の契約時に説明し同意を得ている。状態変化に応じ、繰り返しの話し合いを行い、状況や思いの変化に臨機応変に対応できるように支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を行っている。また、看護師もおり適切な対応と指示を仰げる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。地域の方々にも協力していただけるよう呼び掛けている。	年2回、日中及び、夜間想定で訓練を実施している。近隣住民に協力依頼はしているが参加はされていない。災害時用に、備品整備、非常食の準備等行い災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉遣いや声がけについては研修を行い、普段から利用者様の尊厳を守る言葉遣いを心掛けている。また、個人情報等の記録は外部から見えない所に保管している。	申し送りや会議の場でその都度確認し合う他、定期的に研修を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けをしている。グループホーム通信などの発行物についても、事前に掲載の承認を得ており、十分な配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が選択しやすいように声をかけている。また、うまく言葉にできない方には表情や行動を読み取り、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の気分や体調に合わせてながら、思いに耳を傾けている。無理強いは出来ないが声をかけ、レクリエーション活動や家事参加へ誘っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みで衣類を選んだり、入浴時は毎回同じ服にならないように気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態や好みに合わせた食事を提供している。誕生日には一緒にケーキを作り楽しんでいただいている。	献立は会話の中から要望を聞き、利用者や職員で嗜好を考え食事が楽しみになるよう支援している。外注から弁当を購入したり、利用者や職員と一緒に誕生日のケーキ作りを行い、季節を感じる事の出来る取り組みをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分摂取量を把握し、摂取量の低下や体重減少があった場合は原因を把握し、介助の工夫や医療機関等から指導、助言を得られるようにしている。また、本人やご家族様から好みの物を聞き取り入れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し、清潔保持出来るように声をかけている。また、介助が必要な方には見守りや促しをして、できない所は介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、利用者様個々の排泄パターンを把握している。また、プライバシーに配慮した声かけを行っている。	一人ひとりの排泄パターンをグループホーム独自の排泄表を利用し把握に努め、その方にあった誘導や介助がされている。さりげない声掛けでトイレへ案内し、自尊心に考慮しつつ一人ひとりに合わせた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクリエーション活動や体操に声をかけ、身体を動かしていただくようにしている。また、便秘の方には水分を出来るだけ摂取していただいたり、医師や看護師と相談し下剤等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の入浴習慣や好みの温度などを把握し楽しく入浴していただけるように心がけている。また、コミュニケーションを図りながら体調面の観察も行っている。	週2回の入浴支援をしている。入浴が出来ない時は清拭などの対応もされている。本人が希望すればいつでも入浴出来る体制作りをされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムを把握し、個々に応じて休憩を取り入れている。眠れない利用者には日中の活動量を増やしたり、専門医に相談しながら、眠剤の服用等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様に薬を服用していただく際は、目視にて名前等を確認し職員間で声を掛け合い誤薬防止に努めている。また、新しく処方になった薬や変更があった場合は全職員が情報を共有出来るように薬情を個々のファイルに綴っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望や生活歴、得意な事を把握し個々に合った役割や楽しみを促す働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は行事を計画し利用者様の楽しみや気分転換に繋がるよう、買い物やドライブ、外食する機会を設けている。外出や保育園児との交流も支援している。	感染対策をしっかりと行いながら近隣へ散歩しており、利用者の気分転換を図っている。感染状況を確認し、買い物やドライブに出掛けるなどの支援もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を管理し所持できるように支援している。自己管理が困難な方にはホームで管理している。外出時の買い物などでは自分で好みの物を選び購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話を掛けたい時はスタッフが掛け、用事を伝えてから利用者様へ代わるようにしている。電話が来たときは相手の事を伝え対応している。手紙については要望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるよう、季節感のある食事を提供したり、花を飾っている。また、ホーム内の壁には外出時の写真や利用者様が作った作品や塗り絵を飾っている。	新型コロナウイルス感染症の影響で外に出ることは出来ないが、グループホーム内でのレクリエーション活動を多くし、四季の変化に合わせて装飾を楽しまれている。談話室は利用者の笑顔と笑い声で溢れ明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で出来る範囲内でソファやテーブルの配置を変える等、工夫を行っている。外を眺めるための場所等、利用者様は好きな場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物を持参していただいたり、ご家族様の写真を居室に飾るなどして利用者様が安心して過ごしていただけるようにしている。	自宅で使っていた馴染みの物や仏壇等、利用者本人が好きな物を居室に置き、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・トイレ・浴室などに手すりを取り付け散歩する方や運動する方には安全なスペースとなっている。玄関にはスロープを設けて車椅子の方でも自由に移動できるようにしている。		